

竹取物語 たけとりものがたり

奈良時代
710 平城京遷都 <small>せんと</small>
712 『古事記』
720 『日本書紀』
759 『万葉集』 最後の歌
平安時代
794 平安京遷都
9c後半～10c初め『竹取物語』
905 『古今和歌集』 <small>こぎん</small>
1000頃 『枕草子』 <small>まくらのそうし</small>
1008頃 『源氏物語』
12c 『今昔物語集』 <small>こんじゃく</small>
1185 平家滅亡 <small>めつぼう</small>
鎌倉時代 <small>かまくら</small>
1205 『新古今和歌集』
13c頃 『平家物語』

竹取物語 平安時代の初め頃に書かれた現存する最古の物語。 作

者未詳。かぐや姫の誕生から、五人の貴公子による求婚、帝

の求婚、かぐや姫の昇天までを簡潔な文体で語る。

【参考】

『源氏物語』の「絵合」の巻では、『竹取物語』を「物語のいできはじめの親」と述べています。

まづ、物語のいできはじめの親なる竹取の翁おきなに宇津保の俊蔭うつほを合あはせて争ふ。

まず初めに、左方は、最初に作られた物語である竹取の翁の物語に、右方は、宇津保の俊蔭の物語を合わせて勝負を争うことになる。

* 絵合 左右の二組に分かれて、互たがいに持ち寄った絵を出し合い、その優劣ゆうれつを競う遊あそび。

* 宇津保の俊蔭 平安時代中期の物語『宇津保物語』の「俊蔭」の巻。遣唐使けんとうしの清原きよはらの俊蔭としかげが唐へ渡る途中で波斯国はし（ペルシャ）に漂着ひょうちやくし、阿修羅あしゅらに出会い秘曲ひきくと霊琴れいきんを受けられて帰国する。